

研究課題名「保健医療を学ぶ学生の延命治療への意思決定に関する計量テキスト分析」に関する情報公開

1. 研究の対象

本研究の対象者は、本学医学部保健学科に在籍する2024年度3年生の方です。研究対象となるデータは、2024年度4月～6月に本学で開講された医学部保健学科5専攻共通科目である医療安全管理学の授業において課された課題「延命措置の説明を受けた際に成功する確率によって意思が変更される可能性とその理由を短文で回答ください。なお、①本人、②家族、③医療者として接する患者、ごとでお答えください」への回答内容です。

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：保健医療を学ぶ学生が延命治療の意思決定に対してどのような考えを持っているか明らかにすることです。

研究方法：

講義資料および課題に対する回答内容の二次利用については、本科目の担当者全員から同意を得ています。

研究デザイン：二次利用(横断研究)

目標症例数：190例

症例数設定根拠：本研究で使用する計量テキスト分析においては使用するデータ数に明確な基準はありません。一般的に、アンケートの自由記述を分析する際の必要件数として100件以上が目安とされており、本研究対象者の選択基準を満たす者の数は100件以上となります。

主要アウトカム：テキストデータに含まれるコンセプトの頻度

情報の収集方法：本研究で利用するデータは、成績権者から氏名等の個人情報を削った状態のものをUSBで受け取り、二次利用します。なお、個人が特定できる情報は取り扱いません。

統計・分析方法：統計学的有意水準を $\alpha=0.05$ としてデータ解析を行います。計量的テキスト分析ソフトウェア(SCREEN AS社 KH coder)を使用し、3条件それぞれにおいて「意思が変更される延命措置の成功率」とコンセプトによるクロス集計表を作成します。その後、 χ^2 検定を用いて各条件において希望される成功率とコンセプトとの関係进行分析し、分析結果をバブルプロット図にまとめます。

予想される結果：条件を問わず、低い成功率でも延命治療を希望する理由として「生存への希望」が挙げられ、高い成功率であれば延命治療を希望する理由とし

て「周囲への負担」が挙げられることが予想されます。また、条件ごとに希望する成功率の高さのパターン(3.8【群分け】群分け B)によって、頻出のコンセプトが異なることが予想されます。

研究期間:実施承認日～2026年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

・対象者情報

所属専攻

・課題レポート

2024年度4月～6月に本学で開講された医学部保健学科5専攻共通科目である医療安全管理学の授業において課された課題「延命措置の説明を受けた際に成功する確率によって意思が変更される可能性とその理由を短文で回答ください。なお、①本人、②家族、③医療者として接する患者、ごとでお答えください」に対して、有効回答として得られたレポートのテキストデータを使用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて対象者にご了承いただけない場合には解析前であれば研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも対象者に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

研究責任者 名古屋大学医学系研究科総合保健学専攻

予防・リハビリテーション科学 教授・内山 靖

〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20

TEL/FAX 052-719-3155

メールアドレス uchiyama@met.nagoya-u.ac.jp